

## 大学放浪記 (33)

伊藤信孝

マエジョ大学客員教授・再生可能エネルギー学部

本報では大学で用意して頂いているアパートでのキッチン・ハンガーの製作について記述する。赴任以来住まわせて頂いているアパートは大学のキャンパス内に位置し、しかも当初の一時的居住として、勤務に便利のように学長室のある建物から徒歩で10分の所にある。高齢者には申し訳ないが、現在開いている部屋は3階しかないので我慢をしてくれと言う事で底に投宿することになったが、この部屋は家族用の部屋で、寝室が2つ、そのうちの1つが書斎を兼ねた形になっている。リビングルームにバス、トイレ、ベランダがあり洗濯物の乾燥もできる広い空間を有する。タイの大学では一般にこうした厚生施設は当たり前で有り、来客用のホテルも備えられている。国際学会や学術イベント開催においてもわざわざホテルを探す必要もない。国際的イベント開催においてはこうした施設、特にホテルは極めて重要で、このような施設が歩かないかで参加者数すら大きく変動する。またイベント開催における参加者の参加のためのピックアップの必要も少なく、さらに独自の夜間のイベント開催も可能である。これだけでも国際交流推進におけるわが国の大学との大きな差を視ることが出来る。すなわち日本では国際学会開催で予算を獲得しても半分は宿泊費に支出する事になり、上記為た様に参加者の参加を躊躇させる原因にもなっている。

徒言うわけで用意された部屋は広く、のびのびとした気分で生活できる。他に冷蔵庫、エアコン、扇風機もついており大助かりである。3階と言えども考え方ひとつで良い方向に解釈できる。高齢者だから徒言うのではなく、むしろ毎日3階まで上下する事が健康に良いと判断すれば問題は無い。加えて何度も部屋を変えるとなると、その都度荷物wパッキングして搬送しなければならない。搬送はまだしも引っ越しの度に何某かの物品が置き忘れや紛失につながり生活のリズムが狂う。このアパートから再生可能エネルギー学部までは5ないし6キロあるが、自転車で通っている。人によっては大が腕車を用意して貰い送り迎えを為て貰ってはと言う意見もあるが、これも健康に良いエクササイズであり、排気ガスを出さず環境にも良いと言う事で径臆している。ただ雨だけはにがてであるが・・・。

そのアパートである説き異変に気付いた。キッチンからベランダに出るドアに汁のために貼り付けてあったガムテープらしき物が小片になって散らかっている。訳分からずに2、3日が過ぎたが犯人が分かった。ネズミである。依ある夜に小さな物音がして聞き耳をたて電気を消した暗闇を見ると、わずかに輝る物がある。電気を付けるとそれはネズミであった。ドアの下部の床との好き間を塞いでいたガムテープが小片になっていた原因が分かった。しかし、この空間からの侵入は難しく、どこか他に未だ別のsy機間があるのでと

チェックすると、手回しハンドルで開閉するガラス窓を覆う金網の抑えの部分の木ねじが1本緩んでおり、その隙間から出入りしている事が分かった。早々にその木ねじを締め直したが、ガムテープについてもしっかりした対応を考える必要性を感じ、DIYに出向き材料を購入、とりあえずカバーとして隙間を埋める処置をした。台所だけにネズミが如きS状動物の侵入は、料理に使った野菜などの素材が機食い荒らされる可能性もあるのでした。しっかりとした対応を為しておくことにした。特に食器類については整理整頓して食器の選択、種類の迅速な取り扱い、利用が可能なハンガーを作る事にした。これまでもアパート、キッチンの不具合についてはその都度修理し対応してきたのでこれが初めてのことはない。しかし材料を探すととなかなか見つからない。大量に購入するのならともかく、少量で、簡素に、しかも使いやすく、既存の建物に傷を付けずに完全に切り離した構造にする必要がある。そこで知人に相談したら、入手してくれた。その材料を用いて製作したキッチン・ハンガーの傑作(Masterpiece)をここでは紹介する。既述したように、製作に先立ち考慮すべき制約条件は以下の通りである。

- 1) 構造簡単
- 2) 既存の施設に傷を付けない
- 3) ハンガー単体を何時でも取り外すことができる構造
- 4) 見た目もきれいで、感じも良く、機能的
- 5) 強度的にも十分耐える
- 6) 食器などを整然とできるだけ多く掛ける事が可能
- 7) できるだけ釘やねじの個数を少ない構造とする

上記の制約条件の下で作成したのが後掲の写真で示すキッチン・ハンガーである。製作に先立ち、キッチンの清掃をして全ての食器を含む物品を一時的に除去、移動したのが以下の2枚の写真である。また完成後の食器類をキッチンに戻し、整理した状況を違った角度から撮った写真を示す。



台所用品 (Kitchen utensils) を掛けて収納するハンガー作りで、まずはハンガー設置の場所の清掃で全ての食器類などを取り除いた状態 (上2枚の写真)。



## キッチン・ハンガーが完成し、調理、調度用品をハンガーに掛けた状態

大学のアパートなので、改造、改修に当たっては関係する事務部局に許可を得る必要があるため、最も簡素な構造で、機能も使いやすく、整理もしやすく、見てくれも美しく、既存の壁や構造物に傷を付けない。撤去が簡単にできる物で無くてはならない。今回のハンガーでは暑さ10ミリ余で長さ2.6メートル程度の木製の樹木を用い木材用ねじ釘20本、剛性を増すための棚用軽量アングル2個と中央部の張りのたわみを抑えるために、アルミ材料（1メートル長さ程の長さで別に使用していたもので、不要になったものを再利用、常に不用品でも直ぐに排気せずに整理してこのような時に再利用する）を用いた、ハンガーは完全に全体構造がアパートの既存の施設には直接取り付けられておらず、単体で独立して取り外し除去が可能な構造となって居る。